

コロンビア月例報告（11月分）

外政・内政状況

2011年12月

コロンビア日本大使館

I 概要

【外政】

- 2日 ポルタス・ポルトガル対外ビジネス大臣のコロンビア訪問
- 3日 UNDPによる人間開発報告書2011の発表
- 9日 アンデス共同体（CAN）首脳会合の開催（於：ボゴタ）
- 17～22日 サントス大統領によるトルコ・英国訪問
- 23日 米州人権裁判所におけるマピリパン虐殺事件再調査（於：コスタリカ）
- 28～12月2日 フェルナンデス・ドミ共大統領のコロンビア訪問
- 28日 サントス大統領のベネズエラ訪問
- 30日 ララ・パラグアイ外相のコロンビア訪問

【内政】

- 3日 省庁再編及び大統領府治安局（DAS）の解体
- 4日 カノ FARC 最高司令官の死亡
- 10日 パルド自由党党首の労働相就任
- 21日 ボゴタ市長候補者2名の政府要職への就任
- 26日 FARCによる誘拐被害者4名殺害
- 26日 「ラ・ニーニャ」現象による長雨被害

II 外政

1 ポルタス・ポルトガル対外ビジネス大臣のコロンビア訪問

2日、ポルタス・ポルトガル対外ビジネス大臣が、43名の企業家と共に、コロンビアを訪問、サントス大統領を表敬した後、オルギン外相と会談した。両大臣は会談において、経済関係の強化、及び文化・政治・協力について話し合ったほか、外交及び特別旅券の相互査証免除についての合意に署名した。

2 UNDPによる人間開発報告書2011の発表

3日、UNDPは人間開発報告書2011を発表した。同報告書によれば、コロンビアの貧富の格差は、ハイチ、アンゴラに続き、129カ国で3番目に大きいとされる。

3 アンデス共同体（CAN）首脳会合の開催

8～9日、アンデス共同体の4カ国の大統領がボゴタにおいて特別首脳会合を行い、アンデス共同体の再統合推進、陸上輸送の規則の遵守、エネルギー分野における協力等につき共同宣言を発出した。

4 サントス大統領によるトルコ・英国訪問

(1) 17日、サントス大統領は、オルギン外相、ディアス・グラナドス商工相、パール環境相と共にトルコを訪問、アンカラ大学で二国間関係について講演を行ったほか、ギュル大統領と会談し、航空サービスや学術交流についての合意文書に署名した他、査免協定に署名した。またトルコは、コロンビアのOECD加盟への支持を表明した。

(2) 19日、サントス大統領は、引き続き英国を訪問、女王陛下に謁見したほか、キャメロン首相、クレッグ副首相、ヘーグ外相その他閣僚と会談、貿易額の倍増、科学、技術革新、高等教育、人権についての協力について合意したほか、240人もの企業・投資家と意見交換を行った他、科学技術セミナーに参加した。

5 米州人権裁判所におけるマピリパン虐殺事件再調査（於：コスタリカ）

23日、コスタリカで米州人権裁判所におけるマピリパン虐殺事件の非公開聴取が行われた。1997年、マピリパンで行われたとされる虐殺事件において、被害者を装って多額の政府補償を受領したケースがあるとされており、コロンビア政府は、2005年の米州人権裁判所判決を見直しを要求し、米州人権裁判所は、証拠書類の提出をコロンビア政府に求めた。

6 フェルナンデス・ドミ共大統領のコロンビア訪問

28～12月2日、フェルナンデス・ドミ共大統領は5日間にわたり、コロンビアを公式訪問、投資保護などについて、サントス大統領と話し合いを行ったほか、ロサリオ大学より叙勲された。

7 サントス大統領のベネズエラ訪問

28日、サントス大統領がベネズエラを訪問し、チャベス大統領との間で両国間の特惠関税協定（部分到達協定）に署名した他、(1) 通商、(2) 科学・技術・製造業、(3) 石油、(4) 電力エネルギー、(5) 保健、(6) 農業、(7) 食料、(8) 文化等の分野における11の協定や合意文書を締結した。

8 ララ・パラグアイ外相のコロンビア訪問

30日、ララ・パラグアイ外相がコロンビアを訪問、オルギン外相と会合を行い、南米における電力市場の連結、市民の安全確保についての協力、文化・スポーツ交流につき話し合った。

Ⅲ 内政

1 省庁再編・大統領府治安局（DAS）の解体

法律第1444号（5月4日官報）により定められた省庁再編につき、3日、60もの関連政令が公布された。現時点で明らかになっている点は、下記の通り。

（1）第一に、和解と社会的包摂を目的とし、アクション・ソシアル（国際協力と社会行動のための大統領府管轄機関）を廃止、社会繁栄庁（Departamento Administrativo para la Prosperidad Social）を新設。今後、移行に3～6ヶ月かかる予定。社会繁栄庁長官は、ブルース・マック＝マスター氏が就任予定で、職員数は11,000人、予算は7兆ペソ規模で、国防省に次ぐ予算規模となる予定。

（2）第二に、社会政策及び人権保護の強化のため、法務省を内務省から独立、厚生・社会保障省を労働省から独立させた。

（3）第三に、競争力の強化のため、住居・都市・領土省を環境省から独立、環境省の再編、鉱山及びインフラ関連庁の新設が行われた。

（4）第四に、効率効果向上のため、政府調達、税務関連庁、国際法廷対応局等の新設が予定されている。

（5）第五に、犯罪捜査の透明性を確保するため、58年の歴史を有し、6,000人も職員を擁する大統領府治安局（DAS）が解体され、同局の有する大半の権限がCTI、検察庁、外務省、内務省、国家警察に移譲され、また、100人規模のコロンビア情報庁（ANIC）が新設されることとなった。ANIC長官は、陸軍司令官だったアルバロ・エチャンディア氏が就任する予定。

2 カノ FARC 最高司令官の死亡

4日、サントス大統領及びピンソン国防大臣は、国軍がコロンビア南部のカウカ県スアレズ市郊外に潜伏していたFARC最高司令官ギジェルモ・レオン・サエンス（俗称アルフォンソ・カノ）を、4日国軍と国家警察の統合部隊による作戦（「オディセオ（Odiseo）作戦」）によって死亡に至らしめたと発表した。後任として、軍事戦略に長じ、逃亡するゲリラ等の内部粛正を執行したティモチェンコ（軍事局、マグダレナ・メディオ師団長）が就任。

3 パルド自由党党首の労働相就任

10日、パルド自由党党首は、労働相に就任するため、労働党党首を辞任した。自由党は、今後、上院・下院から5人ずつ代表が選ばれ、合議体により党の運営方針を決定していく予定。

4 ボゴタ市長候補者の次官就任

21日、ボゴタ市長選挙に立候補していたガラン氏（急進改革党）が、透明局長（当館

注：来年，反腐敗を目指す透明局が新設される予定），ルナ氏（自由党）が労働次官に任命された。大統領は，若手政治家を登用することにより，政治の刷新と透明性の確保を実現したいと述べた。

5 FARCによる誘拐被害者4名殺害

26日，FARCが10年以上にわたり誘拐していた軍人及び警察官計4名を殺害した。カケタ県ソラノ付近の熱帯雨林において，軍事作戦を遂行中だった国軍部隊と偶然出会い，交戦することとなったFARC第63戦線により，10年以上に渡って誘拐されていた軍人及び警察官計4名が殺害された。たまたま鎖につながれていなかったルイス・アルベルト・エラソ巡査部長（警察）は，手榴弾で負傷したものの，ジャングルに逃げ，8時間後，国軍に救出された。なお，交戦の際，ゲリラ1名が逮捕された。同日，サントス大統領は，FARCの行為を，「麻薬テロリスト（narcoterrorista）」による人類に対する深刻な罪であるとして，強く非難した。また，サラサール当地国連事務所長は，FARCの行為を残酷な殺戮であり，人類に対する戦争犯罪であると述べた。なお，12月6日，FARCに対する大規模デモが開催された。

6 「ラ・ニーニャ」現象による長雨被害

26日，サントス大統領は，気象庁（IDEAM）の予想を受け，「ラ・ニーニャ」現象による長雨は，当初予想された3月までではなく，12月15日には終わると発表した（当館注：その後，他の気象予測機関が，「ラ・ニーニャ」現象が3月まで継続するとの発表を行っており，現時点では判断が困難な状況にある）。アンディナ地方，ボゴタ川周辺，マグダレナ地方，カウカ地方に大きな影響が出ている。なお，11月21日までに，353の市町村が長雨被害を受け，99名が亡くなり，68,000家族が影響を受けた。

（了）